

大槌町教育振興運動推進協議会

- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
- PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
- 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

『実践区の今後のあり方について』

1 地域の教育課題

これまで当町の実践区は、各小学校の学区により分かれていたが、震災により大きく見直す必要が出てきた。

24年度は、教振の活動ができる状態ではないため、実践区の見直しを行い、次年度への準備期間とした。

<課題の裏付けデータ>

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割
<子ども>

<保護者>

<先生>

- ・地域・行政と連携して実践区のあり方を考える。

<地域>

- ・学校・行政と連携して実践区のあり方を考える。

<行政>

- ・学校・地域と連携して実践区のあり方を考える。

○課題解決のための年間の取組
・事務局、常任委員による会議

3 取組の様子

- 平成24年度大槌町教育振興運動推進委員会事務局会議

日時：平成24年6月25日（月）午後7時～
参加者：13名

内容：

- ①平成24年度大槌町教育振興運動推進委員会事業計画（案）について
- ②規約の一部改正について
- ③実践区の今後のあり方について

- 平成24年度大槌町教育振興運動推進委員会第1回常任委員・事務局合同会議

日時：平成24年7月5日（木）
午後1時30分～

参加者：14名

内容：

- ①研修
 - ・教育振興運動の基本理念と運動の進め方等に関する説明（県社教主事より）
 - ・教育振興運動の基本理念と運動の進め方について（講演）
- ②協議
 - ・実践区の今後のあり方について

4 課題解決を判断する評価の方法

年度末までに次年度以降の実践区のあり方に結論を出す。